



DESIGN with FOCUS

デザイナーの冒険展

トークイベントのご案内

会期中の毎週土曜日（12月27日、1月3日を除く）は
トークイベントを開催します。

※都合により内容が変更となる場合がありますのでご了承ください。

会場 富山県美術館 3階 ホール

各日 14:00～

開場 13:30

申込不要・参加無料

第1回

11.8 Sat

後藤 映則（アーティスト）



自然豊かな環境で育ち、幼い頃から昆虫の動きや光のきらめき、木々の揺れといった「動くもの」に強く惹かれた後藤氏。それらが現在の創作の原点となっています。

その後「時間」と「動き」に加えて「歩行」に関心を抱き、今回の出品作品では、これまでに収集した各地の交差点の記録データによる実在の歩行者の動きをもとに制作しています。



第2回

11.15 Sat

【特別展示】鈴木 啓太（PRODUCT DESIGN CENTER 代表／プロダクトデザイナー／クリエイティブディレクター）



2029年春の完成を予定している、城端線・氷見線の新型車両のデザインを手がけた鈴木氏。祖父が古美術の収集家だったことから、多様な工芸品や美術品に囲まれて育ちました。時代を超えて人々に長く愛されるものへの関心が深まり、自身の手で長く使い続けられるものを生み出すことを追求しています。



第3回

11.22 Sat

本多 沙映（デザイナー／アーティスト）



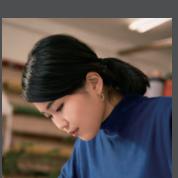
デザインとアートの領域の間で活動をしている本多氏。プロジェクトやリサーチのために各地を訪れる中で、ものづくりの背景から浮かび上がる社会的・環境的な課題に対し、自身の視点を添えることで、価値の転換と自身に何ができるかという問いに意識が向くようになったとのこと。本多氏にとって作品とは、新しい思考や視点への扉を開き、ストーリーを伝えるためのコミュニケーションツールなのです。



第4回

11.29 Sat

氷室 友里（テキスタイルデザイナー／アーティスト） × 光井 花（テキスタイルデザイナー）



氷室氏のクリエイションの原点は、父親の愛用する人型のイタリア製ワインオープナーやイタリアで訪れたデザイン展。大学ではテキスタイルデザインを学び、留学先のフィンランドでジャガード織りと出会いました。テキスタイルという素材を生かしながら、人との関係性を追求するプロダクトデザインの視点が感じられます。



光井氏は各地の伝統的なテキスタイルの魅力を掘り起こし、それを現代のライフスタイルに合わせて再構築、新たな価値として再提案する活動を行っています。東北地方に伝わる「裂き織り」に心を動かされ、その技術を取り入れた作品をパリ・コレクションで発表。デザインの道を志しました。



第5回

12.6 Sat

三好 賢聖（デザイナー／デザイン研究者）



三好氏は「動きのデザイン」に強い関心を抱き、探求を続けています。「どのような動きが、人にどういう心理的な印象や身体感覚に影響を与えるのか」という視点で設計を考えています。また、共同主宰のポエティック・キュリオシティでは、「詩的好奇心」をテーマに、何気ない風景の中に感じる物語を見出して作品に表現しています。



第6回

12.13 Sat

松山 真也 (プランナー／デザイナー／エンジニア／アーティスト)



松山氏は発明家を夢見て、幼い頃から自身の手でさまざまなものを作っていました。「人の気持ちを動かすものとはどういうものか」「どうすれば人の感情に変化をもたらすことができるのか」という問い合わせ軸に、人の「気持ちをつくる」をつくる」ことを追求しています。



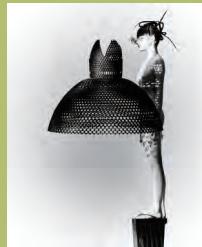
第7回

12.20 Sat

MAI SUZKI (鈴木 舞) (Sculptor of Sensibility)



鈴木氏は日本独自の美意識「粹」をテーマに創作活動をしています。出発点は、大学時代に島根の組子職人に出会ったこと。手作業が生み出す温もりや、職人の生き方そのものに心を打たれたと言います。2025年にしなやかで、身体にまとうことのできる新素材の組子を開発しました。現在、ロンドンで舞台芸術の制作にも携わっています。



第8回

1.10 Sat

山本 大介 (空間デザイナー)



主に商業施設の空間デザインを手掛けている山本氏。自身が手掛けた店舗が解体される現場に立ち会ったことが契機となり、「資材を廃棄するのではなく、使い続けること」を模索する FLOW プロジェクトを立ち上げました。



第9回

1.17 Sat

進藤 篤 (デザイナー／アーティスト)



進藤氏は企業でインテリアデザイナーとして働きながら、個人でデザインやアートの創作活動を展開しています。プロダクトや空間、環境、人との関係性といった、作品を取り巻く「ATOMOSPHERE (空気感)」そのものをデザインすることを考えて制作しています。



第10回

1.24 Sat

高野 洋平 + 森田 祥子 (MARU。architecture) (建築家)



その土地の風土や歴史、そこに暮らす人々や生き物など、複数の要素が交差するなかで、それぞれの関係性を丁寧につむいで建築を創出することをめざしている MARU。architecture。人々に親しまれる池をそのままに、水に浮かぶ古墳のような図書館「松原市民松原図書館」などを設計しています。



上から 松山 真也「音と音楽」、MAI SUZKI「黒木舞」、山本 大介「FLOW PAINTING」、進藤 篤「LIMINAL」、MARU。architecture「思考のトンネル」

DESIGN with FOCUS デザイナーの冒険展

2025年11月8日(土)～2026年1月25日(日)

【お問い合わせ】

富山県美術館

〒 939-0806 富山市木場町 3-20
<https://tad-toyama.jp>

TEL | 076-431-2711 FAX | 076-431-2712
開館時間 | 9:30～18:00

